

伶楽舎の紹介

伶楽舎は日本の伝統音楽「雅楽」の演奏と研究のために1985年に芝祐靖が創設した雅楽演奏団体です。創設以来、音楽監督を芝祐靖(1935-2019、平成29年度文化勲章受章)が務めました。現音楽監督・宮田まゆみ。現在約30名の演奏家たちが活動を行っています。伶楽舎は、昔から現在まで伝わる雅楽の古典曲以外にも、現代の作曲家が作曲した新しい雅楽作品や、長い年月の間に演奏法がわからなくなってしまった作品(廃絶曲)、また、正倉院に残されていた楽器を復元しての演奏など、古いものから新しいものまで、幅広く取り上げて演奏しています。日本を代表する作曲家・武満徹の雅楽作品「秋庭歌一具」の演奏では中島健蔵音楽賞特別賞を受賞。2016年度佐治敬三賞受賞。2020年「第50回ENEOS音楽賞邦楽部門」受賞。2025年「第45回伝統文化ポーラ賞優秀賞」受賞。他に、雅楽の古典曲や復元楽器の曲など多数CDに録音しています。また、伶楽舎の企画による自主演奏会では、新しい作品の初演や大曲の演奏などに積極的に取り組んでいるほか、解説を交えた親しみやすいコンサートや小中高校生を対象としたワークショップ、レクチャーコンサートなども行っています。国内各地の他、アメリカやヨーロッパなどからも招かれて何度も演奏しており、日本の雅楽を世界に広める役割を果たしています。

<http://www.reigakusha.com>



【令和7年度 学校巡回公演 出演者】

伊崎善之、石川 高、国本淑恵、五月女愛、笛本武志、笛野護元、鈴木絵理、田渕勝彦、角田真美、中村華子、中村仁美、野田美香、平井裕子、三浦礼美、宮丸直子

● 令和7年度「学校巡回公演」 (邦楽公演) 雅楽 実施日程

実施日	実施校
11月 7日 (金)	府中市立上下南小学校
11月10日 (月)	井原市立美星中学校
11月11日 (火)	三次市立吉舎中学校
11月12日 (水)	広島県立呉南特別支援学校
11月13日 (木)	岩国市立通津小学校
11月14日 (金)	東広島市立高美が丘中学校
11月17日 (月)	福山市立福相小学校

令和7年度 学校巡回公演

伶楽舎

子どものための雅楽コンサート

〈邦楽公演〉



「学校巡回公演」

全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 独立行政法人日本芸術文化振興会

れいわ ねんど がっこうじゅんかいこうえん 令和7年度 学校巡回公演

が が く れい が く し ゃ ほ う が く こ う えん 雅樂「伶樂舎」<邦樂公演>

ちゅうがっこう プログラム(中学校)

第1部 雅楽ってなあに？ 楽器の音を聴いてみよう

- しょうが えてんらく えてんらくいまよう がっそう
 • 唱歌の「越天楽」や「越天楽今様」をうたって合奏してみよう

かんげん ひょうじょうのねとり えてんらく ばいろ かんしょう
 • 管絃「平調音取」「越天楽」「陪臤」を鑑賞しよう

ほか きょく き ほし やまねあきこさつきよく
 • 他の曲も聴いてみよう 「星のテンテンテン」より (山根明季子作曲)

ほか
 「あんたがたどこさ」他



だい ぶ ふ が く かんしよう 第2部 舞楽を鑑賞しよう

- だいひょうてき ぶがく りょうおう さほう なそりきゅう うほう
 - ・**代表的な舞楽「陵王」(左方)と「納曾利急」(右方)をみてみよう**
 - ふた ぶがく しょうぞく まい おんがく ひかく
 - ・**二つの舞楽の装束や舞、音楽を比較してみよう**
 - えんそうかい さいご えんそう ちょうげいし き
 - ・**演奏会の最後に演奏される「長慶子」も聴いてみよう**

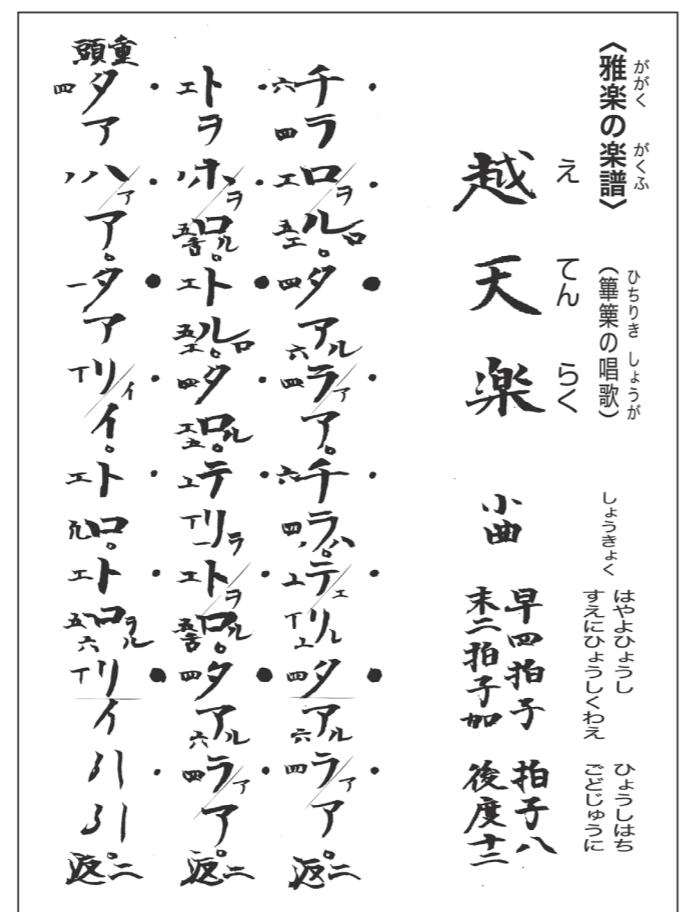
「越天樂今様」歌詞

1. 春の弥生の あけぼのに
 よも やまべ み
 四方の山辺を見わたせば
 はな はくうん
 花ざかりかも 白雲の
 みね
 かからぬ峯こそ なかりけれ

2. 花橘も 匂うなり
 のき
 軒のあやめも かおるなり
 ゆう さみだれ
 夕ぐれさまの 五月雨に
 やま な
 山ほととぎす 名のるなり

3. 秋のはじめになりぬれば
 あき す
 ことし なか
 今年も半ばは 過ぎにけり
 わが夜ふけゆく 月かげの
 かたぶみ
 傾く見るこそ あわれなれ

4. 冬の夜寒の 朝ぼらけ
 ふゆ よさむ あさ
 ちぎ やまじ ゆきふか
 契りし山路は 雪深し
 こころ
 心のあとは つかねども
 おも
 思いやるこそ あわれなれ



が が く き
みなさんは「雅楽」を聴いたことがありますか？

じんじゃ まつり けっこんしき き ひと
神社のお祭や結婚式のときに聴いたことがある、という人もいるかもしれませんね。

が がく せんねんじょう なが あいだ に ほん つた おんがく
「雅樂」は、千年以上もの長い間、ずっと日本に伝えられてきた音楽です。

もともとは5~9世紀ごろに中国や朝鮮半島から日本に伝えられた外国の音楽だったのですが、

ほん あ ほんじん つく きょく くわ
にほんに日本に合うようにとのえられ、日本人が作った曲も加えられました。

平安時代の貴族たちは、雅楽を合奏するのが楽しみのひとつでした。

いまきゅうちゅうじんじやてらぎしきひつようおんがくたいせつえんそう
今でも宮中や神社、お寺の儀式に必要な音楽として大切に演奏されています。

き おんがく ちが
みんなの聴きなれた音楽とはずいぶん違うでしょうが、

がつき こせいてき ひび
ぜひ、ひとつひとつの楽器の個性的な響きと、

じかん なが かん き
ゆったりとした時間の流れを感じながら、聴いてみてください。

だいにぶ ぶがく しょうかい
第二部では舞楽をご紹介します。

その中から、それぞれ代表的な曲を選び、舞振り、装束、音楽がどのように違うかなど、比較して鑑賞します。
豪華な装束や勢いのある演奏をたっぷりお楽しみ下さい。

雅楽の楽器

